

「株式会社 姫路シティ FM21」

第48回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成24年6月23日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ セミナー室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 6名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩成 孝 大谷 昭仁 岸田 直美 楠田 孝蔵
湯之原 貴夫 節子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子 井上 重義 衣笠 愛之 飛田 亜寿沙
柳谷 郁子

5) 会社側出席者氏名

前田 敏則 (専務取締役 放送局長)
黒田 俊雄 (常務取締役 営業部長)
博 (営業企画部 課長)

4. 議題

1) 局長より挨拶

2) 資料説明

3) 試聴

「子供ラジオ教室」「宇佐八幡神社改築竣工式」を10分程度試聴した。

4) 意見交換

副委員長 試聴を聴いたが良い雰囲気であった。

課長 素材は現地の式典を淡々と収録した物であるが編集とナレーションで良いものになっている。

副委員長 添付資料のコーナーについてはこれまでもやっているのか？

課長 弁護士会さんは8月からだが、それ以外は過去から放送している。姫路市関連のコーナーは開局当時から放送している。

副委員長 保険や信用金庫などお金関係のコーナーがないと思う。

課長 通常のコマーシャルは信用金庫なども多い。

副委員長 信用金庫がどうやってお金をためるか説明する、人材派遣業が人の育て方を紹介するなどすれば、聴きたい人も多い。

課長 過去は証券会社のコーナーなどもあったが、言うてはいけない内容なども多いようで、すべて原稿を作られていた。

副委員長 若い人もどうやって仕事を探したらいいのかわからない人が多いようである。数年前にCATVの調査をしたことがあるが、視聴率の上位がハローワーク情報だった。

課長 ゲンキでもコムサロン21さんが若者サポートステーションとしてコーナーを持ってきている。はりまっちさんも説明会などのCMもやってくれている。WDBさんは局長が営業予定。

副委員長 労働関係の話も良い。学生がアルバイトで過酷な労働に従事していることがあるようだ。若者だけでなく中高年に対しても同様と思う。

委員長 低価格なので、もっとセールスするべきだ。基準はあるのか？

課長 放送広告については、病院などはNGである。紙の広告は問題ない。ゲンキの中で基準をもっている。広告代理店などを通す場合と直営業の場合では、やや異なる。他の県域では宗教の番組もあるが、当社はやっていない。

副委員長 主義主張を出さなければ良いのでは？

課長 もちろんです。円教寺の大樹住職には何度もご出演いただいている。

委員 若い世代にラジオが浸透しないという問題点に対して何か仕掛けをしているのか？また、ラジオクラブの実質稼働人数は？トライやるウィーク体験者を次につなげることはできないのか？いくら番組を作ったとして

も、聴いてもらえないと意味がない。

課長 いちばん星という番組に関しては、中学校高校などを取材している。先日も灘中学校にいったが、ラジオを知らない人たちにラジオの宣伝をしてきている。

委員 ラジオで部活の紹介をするだけか？

課長 小学4年生が出演する10才！2分のおとな団については、出演校が減っているので、先日も校長会にて説明してきた。校長先生は理解してくれているが、現場の先生が手間に感じることもあるようだ。

FMゲンキについての認知度は子供に対してもあると思うが、実際に部屋でラジオが聞けないということが大きいようだ。私の子供の中学生はインターネットで自分の好きな曲をダウンロードして聴いている。試験勉強もラジオではなく自分の好きな曲を聴きながらやっている。

委員 周知だけしかできていないのか？

課長 そうです。

副委員長 周知は本当にやっていると思う。毎年授業をお願いしているが、学生のアンケートを見ると「FMゲンキにでたことがある」という内容をよく見る。小学生や中学生のときに出演している。だが、ラジオを持っていない。授業で「これがラジオか！」というイメージである。しかし講義でスタジオの様子を動画で出してもらったり、このページのココをクリックすればネットで聞けるということをやってもらいと、そこで初めて聞く方法がわかっているようである。

ネット環境はこの半年ぐらいで激変してきた。パソコンすら使わない。モバイルで生活が変わると言われていたとおり、若者の生活は完全に変わった。

課長 FMゲンキでも、「スマートフォンで聴こう」という展開を行っている。本来はラジオで聞いてもらいたいところだが、手段はなんでも良いので、まず聞いてもらうことが重要である。

委員 ラジオを聴くのは自動車に乗ったときぐらいである。

副委員長 運転している人は大きなリスナーだとおもう。私も姫路に入ればFMゲン

キを聴いている。NHKラジオ第1は、パーソナリティのトークの中でホームページの告知をしている。取り組み方が、ラジオと他のメディアをどう融合させるか？ということに注力しているように思える。FMゲンキは良くやっていると思う。

委員長 子供を見ていると、車でもラジオを聴いていない。ワンセグでテレビを見る人が増えているのではないか？車でラジオというのも危ないように思える。

局長 そもそもテレビは走行中に映らないのだが、それを解除しているひともいると聞く。

課長 ラジオは災害時の情報手段という側面があるので、FMゲンキの場合は姫路市が色々なところでPRしてくれている。「災害時はラジオを」と言われるが、少したつと忘れられてしまう。

委員長 立派な作品ができるのであれば、有料ダウンロード販売などできないのか？

課長 全国ネットはやっているが・・・。

副委員長 子供が出た番組はダウンロードできるのか？

課長 できる。

副委員長 それをもっと放送中に言った方が良い。

課長 出演者へ通知を送るときには、サイマル放送のやり方やポッドキャストの案内をしている。問合せもある。

副委員長 繰り返しのPRが必要。別の話だが、パーソナリティの話し方について。姫路市消防局のお知らせがわかりにくい。救助件数が何件とっているが、もう少しわかりやすいことにならないのか？意味がないのではないか？

課長 内容については消防局と打合せが必要だが、それを楽しみにされている方もいると聞いたことがある。

副委員長 0件であれば、今日は火事が無かったなどとできないか。天気についても同様である。「厚手の物は長く干せば乾くでしょう」というのは当たり

前。定型の言葉は見直せば良いのではないか。

委員 専門用語で言われてもわからない。

副委員長 累計なんて、普通は使わない。

課長 すべてがすべて原稿というわけではないが、定型の部分については検討したい。先ほど岸田委員から話があったラジオクラブの会員ついてだが、全員で約60人、実働20人程度である。この60人についても、開局時のように名前だけの60人ではなく、やり取りができている会員である。

委員 中高年中心か？

課長 そうではない。中高生も増えてきている。トライやるで来た啓明の学生は、兄弟が10才！2ぶんのおとな団に出演したというのがきっかけだったようである。須磨の学校だが、わざわざ姫路のFMゲンキにアポを取って来てくれた。

委員 FMゲンキの放送を外へ持っていくことは可能なのか？

課長 現地の許可が必要。イベントの時は現場に行って放送をやっている。レギュラーは姫路駅とイーグレひめじ1Fである。基本的にスポンサーが必要。FMゲンキは体力がないので、持ち出しではできない。

委員長 できれば良いと思うが、スタッフの問題もあるのだろう。

局長 メインのスタジオが地下2階なので目に付きにくいという声は多い。

委員 子供ラジオ教室で放送賞を取られたということで素晴らしいと思うが、これを今後学校などで宣伝して看板番組になっていったら良いのではないか。先ほどの試聴では、学校名は出していなかったがそれはそういうものなのか？

課長 そういうわけではない。

委員 学校名を出せば、それはそれで聴いてみようとおもうのではないか。

委員 以前は生涯学習課にいた。特に視覚障害ということで、ラジオを持っておられる方も多く、ラジオに対しても敏感である方が多い。災害のときにもうまく情報がFMゲンキから流れてきたらいいのに・・・という声

も多い。まずは地域で対応ということになるが、極端な方は災害が来たらじっとしているだけしかできないと思っている方もいる。その方が、FMゲンキから励ましていただけるような言葉が聞こえてきたらいいのになとおっしゃっていた。ラジオに対しては、日ごろから大きな楽しみの一つにされている。とても期待されている。

ちなみに、平成16年のときは網干西小学校にいた。10才！2ぶんのおとな団の依頼があって、「よし行くか！」といえは担任の先生は「いくのですか？」という形だったが、保護者を含めて参加させてもらった。タイミングが大きいと思う。数うちやではないが、どんどん言った方が良い。

委員 災害時については7月から各校区に1人、専任者を置いて名簿作成など対応にあたる。

委員長 独居老人、障害者の方などが弱者になる。お話を聞けば、そのような方はFMゲンキを頼りにされているようだ。

委員 マッサージ業をされている方で視覚障害の方は、常に小さな音でラジオをつけておられる方が多い。

副委員長 病院に入院されている方は、ラジオを聴いている方も多い。テレビはお金がかかる。先ほどのわかりやすい日本語という話だが、外国人に対しても災害時については、翻訳が間に合わなければ、わかりやすい日本語を使用するという流れになっている。一般の時間帯でも、心がけていただきたい。パーソナリティが若いということもあるのか？ 今後はシニアパーソナリティということも考えてみたら良いのではないかな。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成24年7月9日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ (<http://fmgenki.jp>)

自社放送内

以上